

Newsletter

Role Models Vol.1

学び直しのみちしるべとなるロールモデルを探そう

ビジネス・ブレイクスルー大学大学院 編

2018/8/7発行

CONTENTS 「年代別、BBT大学大学院のロールモデル」

BBT大学大学院の在学生・修了生の年代は様々です。
今回は20代・30代・40代の修了生3名のロールモデルをご紹介します。

- ◆資料:日本のリカレント教育とBBT大学大学院について p.2
- ◆インタビュー:ロールモデルの紹介について
 - 1. 20代 三五 和磨 さん(株式会社ザイマックス)
～婚約中にパートナーの理解を得、MBAを取得～ p.3
 - 2. 30代 龍 健太郎 さん(富士通株式会社)
～起業の思いを抱き、子育てをしながらMBAを取得～ p.4
 - 3. 40代 岩間 友幸 さん(公務員)
～理系一筋の仕事の中、第二の人生に備えてMBAを取得～ p.5

【BBT大学大学院について】

日本初のオンラインMBAプログラムを提供する経営の専門職大学院として2005年4月に開学。国内のみならず世界で活躍する総計1,100名超の修了生を輩出してきた。「限界を突破し続けようとする開拓者精神に富んだグローバルリーダーの育成」をミッションに、オンラインキャンパス上で実務家講師陣による実践教育を行っている。過去の事例ではなく現在起こっているビジネス上の課題をテーマに学ぶ大前研一考案の教授法「RTOCS(アールトックス:Real Time Online Case Study)」をはじめ、独自のカリキュラムを開発している。 <http://www.ohmae.ac.jp/>

【株式会社ビジネス・ブレイクスルー(BBT)について】

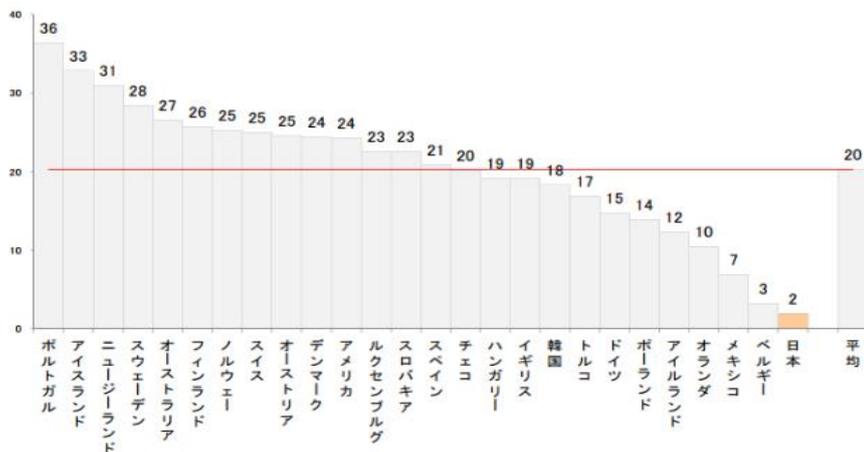
グローバル環境で活躍できる人材の育成を目的として1998年に世界的経営コンサルタント大前研一により設立された教育会社。設立当初から革新的なオンライン教育システムや配信メディアを通じて、インタラクティブかつ質の高いマネジメント教育サービスを提供してきた。大学、大学院、起業家養成プログラム、ビジネス英語カトレーニングや経営者勉強会など、多様な教育サービスを運営するほか、法人研修の提供やTV番組の制作など様々な顔を持つ。2013年10月のアオバジャパン・インターナショナルスクールへの経営参加を契機に、生涯の学習をサポートするプラットフォーム構築を、グループ戦略の柱の一つとして明確に位置づけている。在籍会員数約1万人、輩出人数はのべ約5万人以上。 <http://www.bbt757.com/>

—本件に関するお問い合わせ先—
株式会社ビジネス・ブレイクスルー 広報担当 吉田
TEL:03-6271-0757 FAX:03-3265-1381
E-mail: bbt-pr@bbt757.com

日本のリカレント教育の現状とBBT大学大学院について

日本は、OECD諸国の中でも25歳以上の大学入学者の割合が2%と極端に低い状況です。さらに、MBAの取得者はアメリカが約7万人に対し、日本では約7千人程度です。※1

【図1】25歳以上の学士課程への入学者の割合(国際比較)※2



※1 「学校基本調査」及び文部科学省調べによる社会人入学生数

※2 OECD Stat Extracts (2010)

参照: [文部科学省ホームページ](#)

25歳以上の大学入学者の割合が2%と極端に低い理由はいくつか考えられますが、例えば以下2点の課題が挙げられます。

- ① 企業等での実務経験を持たない教員の割合が高い大学では、社会人を対象としてビジネス関連領域の指導を行い受講者の期待に応えることは困難。
- ② 学習をするための時間的な余裕がない。

文科省中央教育審議会大学分科会大学規模・大学経営部会の「[大学における社会人の受入れの促進について\(論点整理\)](#)」の資料では、以下のように述べられています。

「就業者を対象とした調査によると大学卒業・大学院修了の就業者のうち、『機会があれば大学院修士課程に修学したい』は約15%、『関心はある』を含めると約49%である。しかし、学修を妨げている要因として、『業務が多忙』や『雇用者の理解が得られない』のほか、『職業生活と学修の両立のための費用や学修時間の確保が難しい』や『魅力的なカリキュラムがない』が挙げられている。」

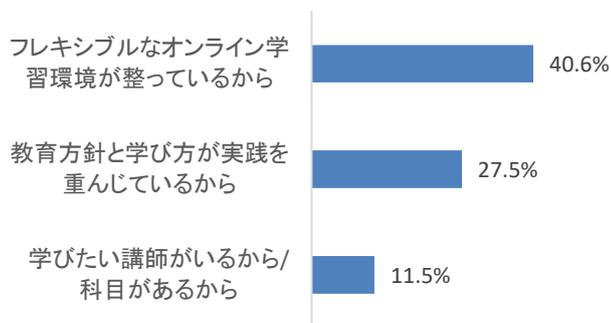
このような社会的要請に応えるための具体策として、同資料の「大学に期待される取組」の中では「社会人の学修動機に応える学位プログラムの編成」などが挙げられています。また、「大学就学に係る負担の軽減」を図るために通信制の導入、経済的負担軽減、就学と職業生活の両立について提言されています。

これに対し、本学が行った【図2】の新入生アンケート(2018年春期生)によると、BBT大学大学院への入学の決め手として、「オンラインであること」「実践的な内容であること」「学びたい講師がいる/科目があること」の3点が上位に挙げられています。

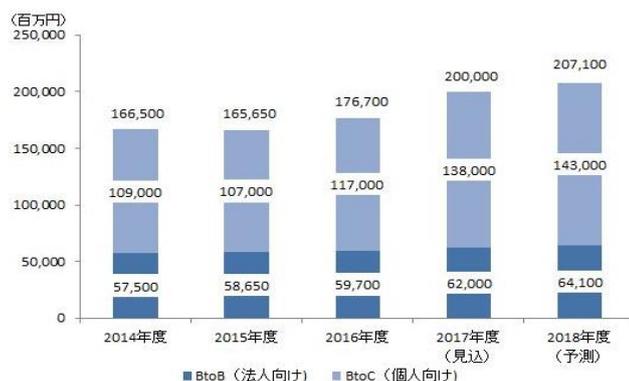
この結果から、上記の課題を解決でき得る学びの環境として、BBT大学大学院が選択されていることが伺えます。

なお2018年3月28日に発表された、【図3】[矢野経済研究所](#)の調査によると、タブレットや学習アプリなどの普及によるeラーニングの利便性向上と利用機会の拡大が、利用者のすそ野拡大を導いたことで、2018年度も社会全体のeラーニング市場は堅調に拡大することが予測されています。このようなことから今後もオンライン学習への関心は更に高まっていくと推測できます。

【図2】BBT大学大学院への入学の決め手(単回答, 上位3項目)



【図3】eラーニング市場規模推移



注1. 提供事業者売上高ベース
注2. 2017年度は見込値、2018年度は予測値

矢野経済研究所調べ

出所元: (株)矢野経済研究所
「eラーニング市場に関する調査(2018年)」
(2018年5月8日発表)

「ビジネスパーソンとしての土台作りは早ければ早い方が良い。
仕事に本気で取り組むのは必須で、尚且つ + α の社外での学びを」
さんご かずま
(三五 和磨さん 入学時:20代、株式会社ザイマックス)



不動産業界

人事職

東京都在住

- ・ 実質的な上司不在の組織構造の中で、新卒から採用業務をリードする中、仕事を本気でやりつつ社外での学びも得たいと思い、MBA取得を決意。
- ・ 妻の理解を得、結婚準備と並行して勉強した。一日の時間配分を意識的に変えるなど、時間捻出やタイムマネジメントを強く意識していた。

Q1 MBA取得をしようとしたきっかけを教えてください

「すごいビジネスパーソンになりたい。ただ、それだけ」

ある程度成長したと思い込んでいた社会人4年目の夏、他部署の部長との打ち合わせが受講のきっかけになりました。社会人として成長した気になっていましたが、それはただ単に「自社内」の「人事」として、だけだと気づいたのです。広い人材市場における「ビジネスパーソンとして」はまだまだ「ひよっこ」みたいなものだと痛感したとともに、このまま人事として普通に業務に取り組んでいては、状況は変わらないと思いました。

「社外でも通用する普遍的なビジネススキル」を身に付けるにはどうすれば良いか？真っ先に思い浮かんだのはMBAでした。というか、MBAしか思い付きませんでした。しかし「仕事は本気で取り組みたいし夜間に定期的に学校に通うなんて無理だ…」と半ば諦めていたところ、たまたまBBT大学院を見つけ「オンラインでいつでもどこでも学べる」仕組みであると知り、こしかないとすぐに説明会に参加しました。

Q2 一番タメになった科目は何ですか？その理由も教えてください

「学長科目で、自然と『未来を考える』癖がついた」

RTOCS(Real Time Online Case Study)という、実存する企業や政府のトップの立場になり、自社の問題解決を構想する毎週の課題がありますが、そこでの学びは非常に役に立ちました。当該企業や業界への知見が深まるだけでなく、そもそもの論理的思考力や情報収集と整理の作法、そして分析の作法など、基本的かつ重要なスキルを体得できました。

また、大前学長の科目は他にも、普遍的かつ重要な思考技術や「今まさに」注目すべき業界トレンドに関する課題が豊富に出るので、ついていけるので精一杯でした。しかし真剣に取り組む続けることで、圧倒的に一般のビジネスパーソンの先を行く知見を身につけられたと思っています。

Q3 学んだことが実践でどう生きていますか？

「明確な何かは無い。ただ、何かが確実に違う、そう実感する」

何か特定の「知識」を得たのではなく、汎用性の高い「知恵」を得られたので、具体的な何かに生きるというよりは、仕事のあらゆる場面で生きていると感じます。

一次情報を集める癖、数字で見る癖、要は何？と考える癖、漏れなくダブリ無く考える癖、論理構成とストーリーをチェックする癖、当事者の視点に立って考える癖… など、体得できた実践力は挙げはじめたらキリがありません。

Q4 BBT大学院はあなたにどのような変化をもたらしましたか？

「全てが変わった」

物事の見方が180度変わりました。現象をデータでおさえる、一次情報を取りに行く、情報を分解・統合する、外部環境の変化を把握する… など、様々な「考える技術」を得たことにより洞察力が飛躍的に向上しました。

そして圧倒的な自信ができました。他者のアウトプットと今の私のアウトプットなどを比較することで、成長をリアルに実感できます。この2年の自分の思考量と行動量に、この自信は裏付けられています。

そして付き合う人も変わりました。高校や大学の友人、社内の人間だけでなく、同じ志を持つ多種多様な業種や様々な年代の方々ととの絆ができたことは非常に大きな財産です。

「MBA取得は単なる勉強の場ではなく“人生の転換”の機会。 世の中の見方と人生の歩み方を変えられた2年間だった」

りゅう けんたろう
(龍 健太郎さん 入学時:30代、富士通株式会社)

製造業

営業職

東京都在住



- 入学当初はIT系大企業に勤務。時間的な制約が少ないという理由でBBTのオンラインMBAを選択。
- 生まれたばかりの子どもがいたが、オンラインMBAの利便性により、家族と仕事と三立しながら学習を継続することができた。

Q1 現在の仕事の内容を交え、簡単な自己紹介をお願いします

「BBTの学びと活動の中でベンチャーへの転職を決意」

現在はロボット開発のベンチャーで営業をしています。入学当初はIT系大企業で働いていましたが、それこそ起業の想いを抱いてBBTに入学したのです。しかし在学中に出会った教授や仲間と、講義だけでなく学外での活動も通して様々なインプットを得て試行錯誤する中で、ひとまず今の道に進むことを決断しました。

起業までのステップとして、ベンチャー企業で大企業に染まった自分の常識をベンチャー企業感覚に入れ替えながら、新たなビジネスチャンスを探っているところです。新進気鋭のロボット開発ベンチャーで、刺激的な仕事に日々ワクワクしながら働いています。自分の一つひとつの考え、判断、活動が、会社の動きを作っていくダイナミックさにベンチャーならではの面白さを感じています。今こうしてやられているのも、BBTで学んだ日々があったからこそだと実感しています。

Q2 BBT大学大学院に決められた理由は何でしょうか

「ビジネスでの成果抜群の講師陣による実体験講座」

入学にあたってはいくつかのビジネススクールを調べました。学費やカリキュラム、講師など、一通り比較もしています。その中からBBTを選択した最大の理由は講師陣だったと思います。

講師陣は、実際のビジネスで失敗などから学びつつ、最後には大きな成果・成功を収めた実務家ばかりです。このような経験値豊富な先生方から、アカデミックな理論ではなく実学が学べる、という点が最も魅力的だったのです。もちろん仕事が多忙な中で、時間的な制約がなる少ないオンライン学習環境が整っているという点も、大きな理由でした。

Q3 仕事・家族(プライベート)・学びをどうバランスさせましたか？

「バランスは必ず崩れるので家族の理解は必須！ 常に家族に感謝の気持ちを」

仕事をしながらもやはり子供の世話しなければならなかったことから、なるべく土日のどちらかは家族の時間として確保しようと決め勉強から離れるようにしました。

当然仕事も集中的に忙しいときがありましたが、そういう時はある程度割り切って「今は仕事！ 落ち着いたら取り戻そう！」と目の前にあるやるべきことを軽視せずに集中するようにしました。

BBTはマラソンのような長期戦です。あまり短期的なイベントに囚われず、長い目で見て大切なものを大切にすることが重要なのだと思います。

Q4 BBT大学院はあなたにどのような変化をもたらしましたか？

「RTOCSは経営の全てが集約された意思決定の訓練。そして起業論は自分の人生に多大な影響を与えた」

BBTの大前学長科目では、「Real-Time-Online-Case-Study (RTOCS)」といって、実在する企業の現在進行形の課題を題材に取り上げ、私とその経営者だったらどう問題を解決するか？という訓練を繰り返し実施します。

この訓練では、経営戦略、アカウントティング、組織論、マーケティングなど、あらゆる科目の要素が絡み、多面的なファクトベースの分析から自分なりの答えの方向性を見つけ出していくのです。まさに「実学」として生きてくる最大の特徴的な講義で、これを継続するだけでもかなりの考える力が身につくこと間違いなしです。

また、個人的には『起業論』が私の人生観大きく変えてくれました。アントレプレナーにとって必要なビジョン策定、組織デザイン、事業プランなどの考え方が講義に盛り込まれているだけでなく、気鋭のアントレプレナーたちが講義に登場して起業にまつわる実体験を語られることもありました。本当に心を熱くしてくれましたね。

「第二の人生に手ぶらで臨むことはできない。 徹底的に、経営・経済について学びたいと思った」

いわま ともゆき
(岩間 友幸さん 入学時:40代、公務員)



公務員

研究・開発職

埼玉県在住

- 中学卒業後に航空自衛隊の学校に入り、通信電子関連の仕事に従事。その間に、夜間大学で電気工学を学び、また大学院へ進学して工学修士を取得。理系一筋で様々な研究事業に携わる中、さらに新たな領域に踏み出すべくMBA取得を決意。
- 在学中は単身赴任だったので、勉強に集中することができた。学期のインターバル期間は勉強以外のことにも集中してメリハリをつけていた。

Q1 MBA取得をしようとしたきっかけを教えてください

「第二の人生に手ぶらでは臨めないという危機感」

基本的に「明るい人生は自らの明るい心が創り上げてゆく」という考え方をしているのですが、いくらなんでも第二の人生に手ぶらでは臨めないと思い、様々な資格や学校のことを調べ始めました。また、自分の強化すべき分野を改めて見つめ直してみたのです。そうすると、経済大国に住んでいながら、**経済のこと、日本と世界の関わり**については報道レベルのことしか“知らない”ことに気がきました。そこで、「どうせやるなら徹底的に」経営・経済などについて学びたいと思い、MBAの取得を考え始めたのです。

Q2 一番タメになった科目は何ですか？その理由も教えてください

「問題解決思考では、表層的な問題の奥に潜む本質的な問題を見出す力がついた」

問題解決思考とイノベーションです。目の前の問題と、その奥に潜む本質的な問題をいかに見いだすかを事例とともに学んでいく授業内容はとても面白く、現在の仕事にも十分活かすことができています。もともと、この講義は長丁場なので、毎日こつこつやらないと後で大変なことになりますが…。また、科目にかかわらず、全ての教授が何らかの形で経営で大きな業績を上げられた方々ばかりなので、各教授から直接お話を聴く機会は、**オンライン**と言えどもとてもエキサイティングでした。

Q3 BBT大学院の教育はいかがでしたか？

「BBT大学院での議論は、“give and give” brings me big crops.」

BBT大学院では海外勤務をしている学生もあり、多種多様な業界やバックグラウンドにもとづくユニークかつ建設的な議論はエキサイティングでした。私も自分の得意な航空機や国家戦略に関するディスカッションピックにおいては、少しでも貢献しようと議論のリードを心がけていました。BBT大学院での議論は、give and take というよりも、“give and give” brings me big crops. だったように思います。

Q4 BBT大学院はあなたにどのような変化をもたらしましたか？

「物事の捉え方、注意が向く分野、普段の行動パターンがより積極的・ポジティブに」

入学前の自分と現在の自分を比較すると、**もののとらえ方、注意が向く分野、普段の行動パターンが、より積極的に、ポジティブ**になっていることを強く感じます。より大きな自信を得ることができたともいえます。

Q5 入学を検討している方に一言お願いします

「学びたいと思ったときに最適の時期」

私の体験談をご覧になられている人は、これから学びたいと思っている人だと思います。私は46才でBBT大学院に入学しましたが、私より若い人の方が多かったです。**学び始めるのに遅い**ということは決してありません。学びたいと思ったときに最適の時期というものでしょう。在学中の2年間は人生で一番勉強した期間かもしれません。その分大変だとは思いますが、必ずその成果が得られるでしょう。皆様とお目にかかれるのを楽しみにしています。